谷川岳山行報告書

（山域）　谷川岳連峰　　谷川岳
（コース）土合口～ラクダのコル（西黒尾根）～谷川岳～天神平（天神尾根）:ﾛｰﾌﾟｳｪｲ山頂
（日時）　１０月１０日（月曜日）
（天候）　晴れ（山頂付近は曇り）
（山行タイム）土合口 6:25～ラクダのコル辺り 8:25～谷川岳 9:25/10:00（オキの耳往復）～
　　天神平（ﾛｰﾌﾟｳｪｲ山頂） 11:45
（参加者）ＣＬ：内堀（記録）・小宮山
（山行報告）
　前日（日曜日）の夜、幕張本郷駅で待合わせし出発。19:00 と早目に出発して、市川 IC を降りて三郷南ＩＣに向かい、外環道・関越道と進み、赤城高原ＳＡで休憩して水上ＩＣで降りて、コンビニで明日の酒・明日の朝食・行動食を購入して、道の駅「水上水の紀行館」でテントを張る。本日駐車場が約 5 割程度埋まり、谷川方面に向かう人達の多さを実感する。テントも 3 張程度あった。車の往来も多く普段と違い煩かった。軽く宴会をして就寝した。シュラフカバーを忘れたおかげで少し寒い思いをした。これからは、寒さ対策が必要であると実感した。
翌朝、4:30 前に起床して朝の支度を行い、朝食を済ませ、谷川岳ﾛｰﾌﾟｳｪｲ駐車場に向かうものの、時間が早く手前の駐車場に止められた。ﾛｰﾌﾟｳｪｲ内駐車場は時間が早くゲートが開いていない。この駐車場で、登山準備をすませ、ﾛｰﾌﾟｳｪｲ口まで向かう。トイレに入り出発。
林道を進み登山センターを超えると、西黒登山口発見。昨日までの雨で登山道がグチャグチャの状態である。いきなりの急登が続き、体が温まらないため、息が上るがそのまま登り続ける。樹林帯の鬱蒼とした中を只ひたすら登り続け、体が温まった頃、エンジンを少し掛け、ピッチを刻むと、1 時間 10 分程度で稜線沿いの開けた場所に出た。休憩する方々が沢山いたため、そのまま進むと鎖場が続き進むと、ラクダのコルに出た。その先の広い場所を選び、1 本目の休憩に入る。1 本目の休憩まで長かったね 2 時間休憩なしである。歩き始めは青空が見えていたが、谷川岳山頂付近はガスに掛り雲の動きが激しい。たまに顔を上げると雲の間から谷川岳が見え美しい。
西黒尾根には沢山の人が繋がっており、こんなに人が取りついているのを見るのは初めてである。休憩後は一気に登ると 1 時間程度で谷川岳トマの耳に到着した。まだ早いせいか人はまばらである。急いで記念撮影を済ませる。山頂到着後はガスの中であり、景色は何も見えない。小宮山さんはオキの耳に行くと一人で旅立ってしまった。私は一人でトマの耳で留守番である。
待っている間、天神尾根より人が怒涛の如く押し寄せ（ビックウェーブ）、山頂写真（トマの耳）渋滞が発生し MAX30 人近い人たちが待っていた。中々、待つのは辛く 10:00 前に小宮山さんが見えたため、休憩も取らず、急いで天神尾根を下る事にした。下山初めは道幅が広く、上り下りも止まることなく順調に進むが、鎖場手前辺りから、登りも・下りも渋滞が始まった。
登り渋滞の方が強いため、その隙間を掻い潜り、先に先にと進み熊穴沢避難小屋を見た時には、ホット一息を付けた感があった。此処まで来ると登りの方は極端に少なくなり渋滞も無くなった。その先は冬場と違い、尾根を巻くように進みﾛｰﾌﾟｳｪｲ山頂駅に到着した。記念撮影を済ませ、ここで休憩と考えたが、ﾛｰﾌﾟｳｪｲ待ちがこの時間から発生しており、靴の底を洗い急いでﾛｰﾌﾟｳｪｲに乗り、山麓駅に向かった。ﾛｰﾌﾟｳｪｲ駐車場待ちの車が沢山並んでおり、こんなに多い谷川岳は初めてであった。駐車場でお湯を沸かし長い休憩をした後、入浴して帰葉した。
やはり三日連休最終日で、どこの高速道路も長い渋滞が続き、我々もこの渋滞に巻き込まれながら帰る事になった。この三日連休最終日が晴天に恵まれることから、急遽、谷川岳の西黒尾根を選んだ。日本三大急登を登り昔登った頃を思い出したいと挑んだが、いとも簡単に登れてしまい少し拍子抜けの感が否めない。昔より今の方が、力がついたかなと思った。
ちば山皆様のおかげですね。ありがたい事です。また、山頂から中腹一帯が紅葉に包まれ、美しい。これから、寒さが進むと冬本番間近である。久々冬の風を感じた。

西黒尾根登山口
土合駅
2.1km
一ノ倉沢
2.6km

—以上—